



## 世界タイヤメーカーCEO会議開催について

日本、欧州、米国、韓国の主要タイヤメーカー11社のCEOは、6月12日に東京で第3回目のCEO会議を開催致しました。これを受け共同のリリースをまとめましたので添付資料にてお知らせ致します。

### 参加企業

- ・株式会社ブリヂストン
- ・コンチネンタル・A. G.
- ・クーパータイヤ・アンド・ラバー社
- ・グッドイヤー・タイヤ・アンド・ラバー社
- ・ハンコック・タイヤ社
- ・クムホ・タイヤ社
- ・ミシュラン・グループ
- ・ピレリ・タイヤ社
- ・住友ゴム工業株式会社
- ・東洋ゴム工業株式会社
- ・横浜ゴム株式会社

(アルファベット順)

日本からはブリヂストン荒川社長、住友ゴム工業三野社長、横浜ゴム南雲社長、東洋ゴム工業中倉社長が出席しました。

### 添付資料

#### 1. プレスリリース

本件に関するお問い合わせ先  
(社)日本自動車タイヤ協会 総務部広報担当：大高、豊嶋  
電話 03-3435-9092 F A X 03-3435-9097

以上

### 第3回タイヤ業界世界CEO会議 プレスリリース

WBCSD, ETRMA, KOTMA, JATMA, RMA

**タイヤメーカーCEOは、道路上のタイヤ摩耗粉、及びタイヤ用材料の環境と健康への影響の可能性について調査の進展を認め、更なる詳細調査継続を承認。**

6月12日に東京で開催された第3回世界CEO会議に、米国、日本、韓国、及び欧州を代表するタイヤメーカーのCEOが一堂に会し、タイヤが環境と健康へ与える影響の可能性に関する調査を行っている長期的プロジェクトの進展内容を検討し、更なる調査継続を承認いたしました。

この取組みは、スイス ジュネーブに本部を置く World Business Council for Sustainable Development (WBCSD = 「持続可能な発展のための世界経済人会議」)の下で行われています。WBCSDは、世界のビジネス界と共に、重要な環境問題や社会問題についての取組みを行っていることで知られる非営利団体です。

第2回世界CEO会議からの16ヶ月間、プロジェクトでは、タイヤの製造に使用される材料についての解析を深める事と、車両を通常使用した時に発生するタイヤ摩耗粉及び道路上の粉塵について調査する事の、二つの課題に焦点を絞って検討を行ってきました。

タイヤ用材料に関しては、一般的に使用されている材料の中から、その物理的・化学的特性及び、既存データの有用性を調査した結果に基づき選定した材料について、その曝露性に関する一次的な評価を実施しました。これらのタイヤ用材料の個々の曝露性につき、EUで規定された排出濃度の予測手順を使用して評価した結果、これらの曝露濃度は人の健康への安全性に対して充分余裕のある低濃度という事が明らかになりました。

更なる詳細な評価は、化学薬品の登録と評価に関するEUのRegistration, Evaluation, Authorization, and Restriction of Chemicals(REACH)プログラムに基づいて、タイヤ各社とその薬品サプライヤーで個別に実施していく事としました。

タイヤ摩耗粉に関しては、乗用車やトラックに特殊な装置を装着して、フランスの道路上を走行し粉塵を捕集しました。また、ドイツやスウェーデンの室内試験所の室内道路シミュレーターで摩耗粉を発生させて捕集しました。このシミュレーターは、実際の道路の舗装路面を使用し、タイヤの走行条件を再現できる仕様となっています。

初期分析において、乗用車やトラックを使用して捕集した道路粉塵は、ごみ、燃料のかす、ブレーキのかす、小石等の路上残留物とタイヤのゴムが混ざり合ってきた複雑な混合物であることが明らかになりました。生態系への安全性を分析することによって、タイヤ摩耗粉もしくは道路粉塵による環境への急性毒性はないことが明らかになりましたが、粒径10ミクロン程度以下の微粒子成分の人体への影響に関しては、更に評価を行っていくこととなります。

タイヤ摩耗粉の調査結果と結論は、今後の専門的な学会で発表される予定です。

WBCSD タイヤ業界プロジェクトのハワード・クリー事務局長は、「小さな浮遊状粒子を捕集し、解析してゆく事は極めて困難な作業であり、それらが環境や健康に影響を及ぼすかどうかを十分に理解するためには、引き続き研究を続けていくことが重要です。」と、述べています。

このプロジェクトに関する報告書は、7月末に WBCSD のウェブサイト ( [www.wbcds.org](http://www.wbcds.org) ) 上に公表される予定です。

各社の CEO は、今後 18 ヶ月間、新たに 220 万 US ドルを投資してプログラムを継続することを承認しました。この間に、更なる情報の収集、粒子状サンプルの追加収集、追加試験、環境中に存在する浮遊状タイヤ摩耗粉を追跡する方法の明確化を行う予定です。

尚、このプロジェクトの進捗内容については、2006 年 10 月及び 2008 年 4 月に、WBCSD によって選ばれたアシュアランス・グループという第三者の有識者からなるグループにより、客観的な視点で審議を受けています。アシュアランス・グループには、ハーバード大学公衆衛生学ジョン・スペングラー教授、アセアン環境対策事務局よりラマン・レチュマナン博士、ドバイ警察学校研究機関よりメシガン・アラワール博士、パリ・ヴァル・デ・マルネ大学よりミシェル・サヴィー 教授、財団法人 地球環境戦略研究機関元理事長の森嶋昭夫教授が参加しています。

本会議参加企業は、次の通りです。：株式会社ブリヂストン、コンチネンタル・A.G.、クーパータイヤ・アンド・ラバー社、グッドイヤー・タイヤ・アンド・ラバー社、ハンコック・タイヤ社、クムホ・タイヤ社、ミシュラン・グループ、ピレリ・タイヤ社、住友ゴム工業株式会社、東洋ゴム工業株式会社、横浜ゴム株式会社。現在、ブリヂストン、グットイヤー、ミシュランが、グループの共同リーダーを務めています。

また、本会議には、米国、日本、韓国及び欧州のタイヤの業界団体の代表者も出席しました。

以上